

「NIEタイム」で新聞活用ワークシートに取り組む児童

〓霧島市の国分小学校



国分小学校（霧島市）

新聞作り表現力養う

学校経営ブランドデザインにNIEの推進を盛り込み、全学年で新聞を活用した教育に取り組んでいる。昨年度は新聞記者を積極的に学校に招き、新聞作りに初挑戦。読解力だけでなく、考えを分かりやすく伝える表現力の向上に力を入れた。

6年生は修学旅行で熊本を訪れ、自主研修で熊本地震の被災地などを取材。それぞれ新聞にまとめ、社説も執筆した。また、新聞記者を招いて

直接指導してもらう機会を多く設け、新聞に対する理解を促した。

各学年では月1回、朝の時間に新聞の感想などを書く「NIEタイム」を実践。家族にもコメントを記入してもらっている。校内の一角には、4紙を置いたNIEコーナーを設置。永田清文校長（57）「取材当時」は「児童の行動に落ち着きが見られるようになり、道徳面での効果も感じる」と話す。（山下翔吾）

か
ご
し
ま

NIE実践校



鶴翔高校（阿久根市）

6紙読み関心広げる

毎週金曜日、10分間の「NIEタイム」を設けている。6紙から、国語科の教員が選んだコラムや人物紹介などの記事の感想を書かせる。短時間で文章を理解し、意見をまとめる力を養うのが狙いだ。

3月14日の現代文の授業では、2年生15人がNIEタイムで取り上げる題材を選んだ。鏡山晃史教諭（52）は「興味をそえられる、タイムリー、10分で読める記事を」と助言した。（桐原史朗）

言、班ごとに記事を選び、理由などを発表した。ブラック企業に関するものを取りあげた中村彩月さんは「就職する時のことを考えた。授業では、ふだん読む新聞とは違う書き方や視点に触れられる」と話す。

小論文対策に活用したり、進路指導で将来の仕事について考えさせたりする教員もいる。鏡山教諭は「社会に対する関心の幅が広がっている」と話した。（桐原史朗）

関心を引く記事を選ぶ生徒たち